

# 令和7年度 シラバス

愛媛県宇和島高等学校津島分校

教科	保健体育	科目	保健	単位数	1	学年	2	類型	ビジネス・カレッジ
教科書	現代高等保健体育改訂版(大修館書店)			副教材	現代高等保健体育ノート改訂版(大修館書店)				

学期	月	単元名	指導項目、内容	重視する評価の観点			学習のねらい・学習の目標・評価の観点	
				知	思	主		
1 学期	4	3単元 生涯を通じる健康	1 ライフステージと死亡や病気 2 各ライフステージにおける健康課題とその支援	◎	○		学習のねらい  個人および社会生活における健康・安全についての理解を深めるとともに、健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養うなど、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を身につける。	
		02 思春期と健康	1 思春期の体と健康 2 思春期の心と健康	○	◎			
	5	03 性意識と性行動の選択	1 性意識とその尊重	◎		○		
		04 妊娠・出産と健康	1 受精・妊娠・出産 2 母子保健サービスの活用	○	◎			
		05 避妊法と人工妊娠中絶	1 家族計画の意義と避妊法 2 人工妊娠中絶		○	◎		
	6	06 結婚生活と健康	1 結婚生活の基盤となる心身の発達 2 結婚生活と家族の健康	○	◎			
		07 中高年期と健康	1 加齢による変化と健康 2 高齢者の健康を支える取り組み					
		08 働くことと健康	1 働くことと健康のかかわり 2 働き方と健康問題の変化	○	◎			
	7	09 労働災害と健康	1 労働災害とその要因 2 労働災害の防止	○	◎			学習の目標
		10 健康的な職業生活	1 職場における取り組み 2 仕事と生活の調和	◎	○			
2 学期	8						生涯の各段階においては、健康にかかわるさまざまな課題や特徴がある。生涯にわたって健康に生きていくためには、生涯の各段階と健康とのかかわりを踏まえて、適切な意思決定や行動選択および社会環境づくりが不可欠であることを理解するとともに、生涯の各段階や労働における健康課題の解決に向けて思考・判断・表現できるようにする。健康の保持増進には、個人だけでなく、個人を取り巻く自然環境や社会の制度、活動などが深くかかわっている。したがって、すべての人が健康に生きていくためには、環境を整備しそれを活用する上で、課題を発見し、その解決をめざした活動を通して、環境と健康、食品と健康、保健・医療制度および地域の保健・医療サービス、さまざまな保健活動や社会的対策、健康に関する環境づくりと社会参加などについて、理解を深めるとともに、これらの課題の解決に向けて思考・判断・表現することができるようにする。	
	9	4単元 健康を支える環境づくり 01 大気汚染と健康	1 大気汚染の原因と健康影響 2 大気にかかわる地球規模の問題	◎	○			
		02 水質汚濁、土壌汚染と健康	2 土壌汚染とその健康影響 3 大気汚染、水質汚濁、土壌汚染のかかわり		○	◎		
		03 環境と健康にかかわる対策	1 環境汚染の防止とその対策 2 産業廃棄物の処理と健康		◎	○		
		04 ごみの処理と上下水道の整備	1 ごみの処理の現状 2 安全で良質な水の確保	◎	○			
	10	05 食品の安全性	1 食品の安全性と健康		◎	○		知識・技能  現代社会と健康、安全な社会生活、生涯を通じる健康、健康を支える環境づくりについて、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解するとともに、心肺蘇生法等を実施できる。
		05 食品の安全性	2 食品の安全性に関する今日的課題	◎	○			
		06 食品衛生にかかわる活動	1 食品の安全性の確保	◎	○			
		07 保健サービスとその活用	1 保健行政の役割	◎		○		
	11	08 医療サービスとその活用	1 医療の供給と医療保険		○	◎		思考・判断・表現  現代社会と健康、安全な社会生活、生涯を通じる健康、健康を支える環境づくりについて、自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝えることができる。
"		2 医療機関と医療サービスの活用		○	◎			
12	09 医薬品の制度とその活用	1 医薬品の種類と使用法	◎	◎		主体的に学習に取り組む態度		
3 学期	1	10 さまざまな保健活動や社会的対策	1 健康を支える保健活動と社会的対策		○	◎	現代社会と健康、安全な社会生活、生涯を通じる健康、健康を支える環境づくりについて、主体的にねばり強く学習に取り組もうとしている。	
		"	2 保健活動や社会的対策への住民理解	◎	○			
		11 健康に関する環境づくりと社会参加	1 健康と環境づくり		○	◎		
	2	"	2 環境づくりへの社会参加と情報の活用		○	◎		備考
		"	"	◎	○			
		保健編用語解説	考査前復習	○		◎		
3			学年末考査	◎	◎			
	保健編用語解説	1年間のまとめ	◎		○			

※評価の観点 知：知識・技能 思：思考・判断・表現 主：主体的に学習に取り組む態度

◆学習方法のポイント

【保健の特色】

- 保健は、他の教科よりもある意味で将来よく役に立つ科目です。社会生活を送る上での基本的な知識が身に付きます。
- 保健を学習することで、今後自分たちがどのように生活していかなければならないかを理解し、適切な選を行い、行動することができるようになることが目標です。
- 2年時では年齢とともに変化していく私たちの心と体について理解を深めるとともに、私たちの健康を支えている保健・医療のしくみや活用のしかた、また、健康に関連する環境・食品の問題や、労働と健康の関係などについても学びます。

【授業】

- 週に1時間の授業があります。
- ノートは、板書に加えて、口頭で示された重要ポイントも記しておく、復習する時に役立ちます。
- 練習問題を必ず自分で解くことが、新しい知識を身に付けることにつながります。

【家庭学習】

- 健康に関するニュース、新聞記事などに興味をもち、情報を取り込みましょう。
- 前日に少しでも前回の復習をしておく、授業内容を理解する度合いが違ってきます。

【定期考査】

- 教科書・ノート・練習問題・口頭で示したポイント等から出題します。
- 考査範囲全体を漫然と学習するよりも、重点的に学習する部分を絞ったほうが効果的です。

◆評価の方法、基準

評価の方法	①定期考査の成績 ②授業への取り組みのようす ③実習等での取り組みのようす ④ノート・レポートの提出状況	
評価の基準	1 学 期	・評価の観点、知 知識・技能、思 思考・判断・表現、主 主体的に学習に取り組む態度の3つの観点で総合的に評価します。 ・出席状況、授業態度、教科書の読み、発表、ノートの整理状況、課題の提出状況、定期考査をもとに総合的に評価します。
	2 学 期	・評価の観点、知 知識・技能、思 思考・判断・表現、主 主体的に学習に取り組む態度の3つの観点で総合的に評価します。 ・出席状況、授業態度、教科書の読み、発表、ノートの整理状況、課題の提出状況、定期考査をもとに総合的に評価します。
	3 学 期	・評価の観点、知 知識・技能、思 思考・判断・表現、主 主体的に学習に取り組む態度の3つの観点で総合的に評価します。 ・出席状況、授業態度、教科書の読み、発表、ノートの整理状況、課題の提出状況、定期考査をもとに総合的に評価します。
	学 年	1学期の成績、2学期の成績、3学期の成績の平均